

### ◇牧師室から◇

今年の秋、日本基督教団の総会が開かれる。今回の総会は、沖縄教区が「日本基督教団」から「日本合同キリスト教会」に名称変更の議案を提出しているが、この議案の最終結論を出す総会と位置づけられている。包括団体の名称が変わることだから、全教会に関わる大きな問題である。各教区、各地区で学びと議論がなされている。

日本基督教団と沖縄キリスト教団は1969年、沖縄の本土復帰に先立って合同した。ところが、この合同は本土の教会は何も変わらず、沖縄の教会だけに変わることを要求し、大が小を飲み込む吸収であった。教団は20年数来、「合同のとらえなおしと実質化」ということを議論してきた。この問題は、宗教法人格を持つ両者の対当の合同でなかったという問題である。しかしその根は、本土の教会は沖縄の教会の労苦を担ってこなかったという問いかけである。沖縄で伝道している村椿嘉信牧師は「ウチナーの教会とヤマトの

教会は共に歩むことが出来るのか。『名称変更』は、ヤマトの教会と共に歩みたいというウチナーの教会の強い意志の表明に他ならない」と一見ラブコールに見えるが、内実は苦渋に満ちた議案提出であると語っている。太田春夫牧師は「時代と人間に関わる福音理解の問題であり、大が小を呑み込むという我々自身の差別体質への根本的な問いであり、「戦争責任告白」という教会と国家の関係を問う課題でもある」とつつこんだとらえ方をしている。

先日神奈川教区主催で、この問題の報告・研修会があり、斎藤忠雄兄と出席してきた。「勉強していない、よく分からない、慎重に」などという意見が続出した。20数年来問われているのに、自分の意見を持たないことは無責任で、沖縄の教会が議案提出に踏み切った苛立ちが分かるように思った。名称を変更し、沖縄の教会との合同を実質化していく第一ステップにすべきではないか。それが本土の教会の「再生」になる。

## 週 報

1998年6月7日 聖霊降臨節第2主日

三位一体主日

巻19

10号

1998年度 教会主題

「恵みの座に近づこう」

聖句 だから、憐れみを受け、恵みにあずかって、時宜に  
かなった助けをいただくために、大胆に恵みの座に  
近づこうではありませんか。

ヘブライ人への手紙 4章16節

- 目標
1. 生活を整えて礼拝、諸集会を守る。
  2. 一人が一人を伝道する。

### 横浜港南台教会

日本キリスト教団

横浜市港南区港南台7丁目8-29

郵便番号 234-0054

電話 045-833-5323

F A X 045-833-6616

振替 00290-4-13994

牧師 秋吉隆雄